

| 教科 | 課題（現状、傾向、課題分析） | 改善プラン（改善のための具体策や取組） | 成果(○)と課題(△) |
|----|--|--|-------------|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめることに課題がある。 文章を読み取る力はあるが、読み取ったことを基に自分の考えを表現する力を高める必要がある。 文と文のつながりに気を付けて文章を構成したり、事実と感想、意見などを区別して文章を書いたりすることを苦手とする児童がいる。 漢字を正確に書く力、語彙力に個人差がある。また、主語、述語、修飾語の関係が理解できていない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分と異なる意見にも耳を傾けることを指導するとともに、対話の視点を明確に提示し、相手の意見を聞いて助言や提案をする時間を設ける。 文章を読み取った後に、ペアや小グループで、感想を交流する時間を確保する。 様々な教科や活動で、「情報ノート」を活用し、事実と感想、意見を区別して書く活動を取り入れる。 けやきタイムで、国語辞典などを用いて語彙を増やしたり、前学年までの漢字や語句、文法の習得を図ったりする。 | |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を関連付けて読み取ることに課題がある。 自分たちの住む区や47都道府県の位置、世界の大陸や海洋と我が国の国土との位置関係を理解していない児童がいる。 生産者の思いや願いを考え、工夫や努力を考察することが苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> 地図帳や各種の統計資料や分布図など、多様な資料を活用する。また、資料を見て気付いたことを交流することで、多様な見方に気付けるようにする。 地図帳や地球儀を活用したり、調べて確認したことを白地図にまとめたりするなどの具体的な活動を取り入れる。 インターネットで生産地が発信する情報を集める等、具体的な活動を通して調べるようにする。また、人々の思いや願いを考える発問を増やす。 | |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 立式の根拠や、問題の解決方法を説明する活動を苦手とする児童がいる。 自分とは異なる考えを理解することや、その考えを用いて問題を解くことができない児童が多い。 小数のかけ算、わり算では、商や余りの小数点の位置を間違えて誤答となることが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをノートに表現し、説明できるよう、図、式、言葉などを用いた多様な表現方法を指導する。 児童の考えの提示の仕方や順番を工夫する。 聞き手が分からないことを質問できるよう、「○○ですよね」「ここまでは分かりましたか」など、自分の考えを指し示し、相手に問いかけながら説明できるようにする。 計算の仕組みを理解できるよう、既習事項を基に計算の仕方を考え、説明する活動を大切にする。 | |

| | | | |
|----------|---|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの練習プリントに取り組み、苦手意識の高い単元を復習し、定着を図る。 | |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程が、まだ身に付いていない児童がいる。 ・目的意識をもたずに実験に臨んでいる児童がいる。そのために、実験から何が分かるのか、理解できていないことがある。 ・実験器具を正しく使えない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題、仮説、方法、結果の予想、実験、結果、考察、結論のカードを使い、板書を構成する。 ・実験の目的を明確にできるよう、仮説を確認し、それを確かめるための実験方法を、自分たちで考えるように促す。 ・実験に必要な器具を考え、選べるようにする。また、実験前に、器具の正しい使い方を説明する。 | |
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習では、初めての活動に慣れない児童が多い。 ・衣食住などの生活の中の様々な言葉を、実感を伴って理解することが難しい児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・操作方法や実習手順を図や動画で提示する。また、学び合えるような班の構成にする。 ・制作や調理などで体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりする等の学習活動を充実する。 | |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを意識して学習に取り組むことができない児童がいる。 ・できない、勝てないことに対し、どのようにしたら勝てるか、という思考、判断する力が弱い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の流れをパターン化する。 ・めあてを体育ノートに書かせ、学習のはじめに確認する。 ・運動の様子を撮影し、自分や友達のよさや課題を振り返る。体育ノートに記入させ、課題や技能ポイントを共有できるようにする。 | |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ・男子も女子も歌唱に意欲的な児童が多いが、まだ楽譜に慣れず譜読みのおそい児童がクラスに数人いる。 ・楽器の技能面では、個々で差があり手が止まって活動が思い通りにできない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた歌唱プリントを用意する。例えば、ひらがなのみのプリント、漢字交じりのプリント、歌集を使っているの譜読みなど、いくつか用意し自分で譜読みがしやすいものを選ぶ。 ・1つの楽曲に対して、簡単・普通・応用バージョンの楽譜を用意し、学習に取り組みやすい教材を作成する。 | |
| 図画 工作 | <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・友達よさに気付くよう教師が言葉かけを行う。鑑賞タイムの設定。 | |

